

# 来年度報酬改定に当事者と家族の声を

来年度の障害福祉サービス等報酬改定に向けて厚生労働省の検討チームが行う関係団体ヒアリングの対象団体の1つとして、7月12日、弊会より宮副代表と村尾副代表が出席し、医療的ケア児者と家族の声を凝縮した意見を伝えました。

要望の大きな柱は、2つです。

i) 安全な日常生活を送る上での「見守り」を基礎とした3層支援整備

- ・ 自宅での安全な生活を支えるための「見守り」
- ・ 成長発達に必要なサービス利用のための「見守り」
- ・ 特に安全上の管理が必要な状況での「見守り」

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に関する意見等(詳細版)

## 補足:安全な日常生活を送る上での「見守り」を基礎とした3層支援イメージ

医療的ケア児者の日常は、決して自宅だけでも、自宅外でもない。

- (1)第1層:自宅での日常生活の安全
- (2)第2層:成長発達に必要な、療育や教育を受ける上での安全
- (3)常に医療と関わりの中で生きていくという特徴を踏まえた、入院中の安全

という、「3層構造の支援」が整って、はじめて“医療的ケア児者にとっての日常生活”が成立する。



アイライン提出資料の一部



ii) 通所での医療的ケア児者受入れ促進

- ・ 障害支援区分の判定における、医療的ケア児者に必要な支援度合いの適切な反映
- ・ 障害支援区分「7」の新設

アイラインが提出した資料は、こちらから閲覧できます。



<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/001119483.pdf>

vol.16  
p1

# 家族会の活動レポート⑥北海道 みんなで行ったら怖くない！

北海道医療的ケア児者家族の会 team dosancoです。13市町村から51名の会員が集まり、子育ての悩みや相談、道内各地での取り組みや制度について、ZOOMやline worksで情報共有しています。

今年度から対面で会う機会が増えてきました。今回は7月23日に実施した、サポートが必要な人と支援者との橋渡しを事業とする「NPO法人あえりあ」さんとのコラボ企画「チームラボであそぼう」をご紹介します。あえりあさんの「インクルーシブ教育推進の中、有資格者はもとより大人も子供も医療的ケア児を知らない、触れ合ったことがない人が多いから接点を持ちたい」という考えと、私たちの会の「医療的ケア児を連れて遊びに行けるかな、きょうだい児もいるからちょっと手を借りたいな」という要望が合致したイ

イベントで、6家族と支援者含め約30名の参加がありました。

支援者の皆さんに手伝ってもらいながら、抱っこでデジタートの中に突入したり、滑り台を楽しんだりすることができました。参加者からは「みんなで行ったら怖くないの精神だね」「うちの子でも遊べるんだ」と、それぞれ有意義な時間を過ごすことができました。詳細はこちらからお読みいただけます。⇨



代表 小山内淳子



vol.16  
p2



# アイライン活動記録

(2023年7月)



## ○ ZOOMミーティング

- (全国代表者連絡会) 2日
- (サークルリーダー) 7日
- (事務局) 12日
- (役員) 13日、27日

## ○ オンラインサークル活動

- (学校) 1日
- (野球部) 27日

## ○ 外部イベント参加

<宮副代表>

- ・第2回日本財団調査有識者委員会(オンライン出席) 4日
- ・第3回あそびのおし配布検討委員会(オンライン出席) 9日

<宮副代表、村尾副代表>

- ・第29回障害福祉サービス等報酬改定検討チーム団体ヒアリング 出席 12日

## ○ その他

- ・全国フォーラム構成、登壇者検討
- ・全国フォーラム参加登録 実施/問合せ対応(~7/25)
- ・アイライン全国アンケート 実施/問合せ対応
- ・取材対応(新聞社2社)
- ・HPやメールからの問合せ対応

## NEWS

11/3の全国フォーラムに向けて各地の意見を集約するため全国アンケートを実施し、7/31までに248件の回答をいただきました。

誠にありがとうございました。今後、アンケート結果を分析し、アイラインとしてどのような声を発信するのか検討していきます。

